

発行: (福) 十字の園 法人事務局
理事長 平井 章

住所: 〒431-1304
静岡県浜松市北区細江町中川 7220-11
tel 053-414-1400
fax 053-420-2100

社会福祉法人 十字の園

ぶどうの木

(ヨハネ福音書 15章)



伊豆高原十字の園 ガーデニングサークル

『私の趣味』

伊豆高原十字の園 施設長 モリ 森 シゲヒロ 茂廣

趣味は？と聞かれ、自分に問いかけてみる。山歩き・読書・ガーデニング…それとも仕事？人生そのもの？

10月から、毎週木曜日の礼拝後に、入居者の皆さんと一緒に、詩の朗読会を開いています。大正・昭和の詩人の名前と代表作品を紹介しているうちに、「金子みすずさん」との指名がありました。『鈴と小鳥とそれからわたし、みんな違って、みんないい』読み進むうちに、入居者の皆さんの表情が変わってきます。うなずく人、涙ぐむ人、それぞれの心に、あたたかく、やさしく響いたようです。入居者の皆さんと共に、心豊かな時間を過ごす…当面のわたしの楽しみです。



左から2人目が筆者

十字架の下で一つになって働く団体「十字の園」

理事長 平井 章

◇献堂の日に記したハニ姉妹の文章

1960年12月4日の教会の週報に、ハニ姉妹は、「何もなく、神様のみ言葉の約束だけを信じて私たちは神様の奇跡をいっぱい見ました。神様が約束してくださった天国へ入りたいけれども、私たちは罪が多いので入れてもらえません。天のみ使いが炎をもって門を守っていますから。主イエス・キリストがご自身の十字架によって、神の国へ入る道を開いてくださいましたから、私たちが入ることのできる国は十字架の下だけです。そこには救いの希望があります。私たちの心は感謝と歓びに溢れています」と記しています。

◇「十字の園」の名前の由来

ハニ姉妹は「老人ホームはいつまでも神様の力でやりたい。老人ホームで働く人は、みなキリストの十字架の下だけ一つになって働く団体にしたい」と言って、法人の名前を「十字架の園」と提案しました。それではまるでお墓に行ったみたいという声があり、「十字架園」「十字園」といろいろな意見が出ました。結局、「十字園」に「の」をいれたらという鈴木フミさんの意見が取り入れられ「十字の園」になったようです。県の係長は「社会福祉法人であり、公の施設であるホームが、そのものズバリの名前なんか付けんでもいいだろう」と難色を示しましたが、何とか理解していただき、正式に「十字の園」となったとのことです。

◇「聖隷」の名前の由来

「(イエスは) 食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。(ヨハネによる福音書13章)」から、神の子であるイエスが奴隷のように弟子の足を洗ったことから「聖なる神様の奴隷になろう」と長谷川保は「聖隷」の名を付けました。「イエスは、わたしたちのために、命を

捨ててくださいました。そのことによって、わたしたちは愛を知りました。だから、わたしたちも兄弟のために命を捨てるべきです。

(ヨハネの手紙I 3章16節)」に触発されて、世の中に嫌われていた結核療養の事業を起こしました。長谷川保の語録に「一番大切で確実なことは、世の中が必要としていることを全力を挙げて果敢に実行することだ」、「やらなければならないことは、やらなければならないのだ」という言葉があります。



◇「十字架」による神の愛

「名は体を表す」といいます。「あなたはどこで働いていますか？」と聞かれると、「十字の園」と答えます。そうです、わたしたちは「十字の園」という肩書を背負っているのです。この名は、仕事上のアイデンティティーです。相手の方は、聞くまでもなく「キリスト教の施設で働いている人だ」と思うでしょう。聖書に「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい(ルカ福音書9章)。」とあります。キリスト教精神で運営する十字の園の職員には、信仰の有無に関係なく、イエスの十字架によって神の愛が示され、すべての人が神に愛されていることを知っててください。

⁵わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。……

⁹父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちになさい。

(ヨハネ福音書15章5節、9節)

「かけがえのないものを大事に」

十字の園評議員(伊東教会伝道師) 田中 光

伊東教会に来て、もうすぐ二年になろうとしています。東北出身の私にとって、伊豆という土地はあまり馴染みのない土地でしたが、住んでみて思うことは、何と自然が豊かで、食べ物も美味しいかということです。気候も温暖で、人々も親切で、時間がゆったりと流れていきます。

教会での御奉仕と共に、十字の園での働きも、二年目ということになります。ここでの働きを通して常に感じることは、十字の園の創立者たちが大切にしたい、キリスト教信仰を保ち続けるという使命の重さです。



カナダに暮らしていた時に目の当たりにしたキリスト教の衰退を思い起こす時、この思いは一層強くなりました。カナダの都市部では、人々はキリスト教信仰を自分たちの「恥」だと思える人もいるくらいキリスト教嫌いになっているのです。まして、キリスト教人口が1パーセントに満たない日本では教会の認知度も低く、そのような中で、社会福祉施設の根幹を成すキリスト教の精神も簡単に忘れ去られてしまうかもしれません。

十字の園の創立者たちが私たちに伝えた信仰は次のことでした。神が私たち人間を愛しており、私たちを罪から救うために、独り子、主イエス・キリストを遣わされた事。それ故に、私たち人間は、神に愛されている者として、互いに愛し合わねばならぬこと。そして、その主イエスと結ばれて死ぬ時に、天の御国にて、永遠の命を賜ること。私に与えられた使命は、この信仰を皆様にお伝えすることと心得つつ、これからも十字の園で働きに加わらせて頂きたいと存じます。

「伊東市立養護老人ホーム受託10年を振り返って」

伊東市立養護老人ホーム平和の杜 元施設長(現伊豆高原十字の園施設長) 森 茂廣

伊東市から養護老人ホームの指定管理運営を受託してから今年で10年目となりました。愛称として『平和の杜』を冠し、『のびやかにそして和やかに』と職員、利用者、ご家族、地域住民と共に歩んできました。

この10年、養護老人ホームへの入居及び緊急入所については、無条件で受け入れ、又受け入れた方については、病気入院後も含めて最期まで寄り添うことをモットーにしてきました。

結果として、スタッフの介護する想いと力は強められ、入居者の皆さんの中に、共に生きる寛容さが生まれ、信頼感、安心感につながっていることは、『平和の杜』として、誇りに思えることです。

経営については、終始一貫して厳しい状況が続いていますが、平成19年に介護保険制度による訪問介護事業所と通所介護事業所を併設し、平成24年にはサテライト型通所介護事業所を開設する等のチャレンジを行い、サービスの向上と将来の収支改善に努めてきました。今年度からは、両通所介護事業所ともに利用率の向上が図られ、全体の経営状態の改善に繋がっています。

今後も、『法人の理念』を基本にして、地域住民の皆さんの安心を支える地域福祉の拠点として、また、伊東市における貴重なセイフティネットとして地域社会に貢献していきます。

「2014年度 十字の園大会／大会報告」

(松崎大会)



第19回十字の園大会は、松崎十字の園が研修運営を行いました。今回の大会では、テーマに基づいた基調講演、課題講演は行わず、施設長が発題をする形でパネルディスカッションという方法を取りました。

テーマは、「時代の流れの中で変わらないもの、変わったもの、変わってはいけないもの、変わらなければいけないもの」という長いテーマでしたが十字の園の55年の歴史を振り返りつつ、7名の施設長、並びに事務局長にテーマに基づいてそれぞれの思いを第一日目にお話をさせていただきました。二日目は、ディスカッションを行いました。発題者8人を中心に置き、聞き手・質問者がその周りを囲み、事前に受けていた質問や当日の感想の中から「人件費削減」と「理念」という事が選ばれて、パネリストから意見等を貰い、それについて周りから質問を受ける形で行われました。取り囲まれるディスカッションは、初めての事で面白いと最初は思っていたのですが大きな緊張感がありました。

施設長たちのお話は、それぞれ責任者としてその立場の中でのお話でしたが後から振り返ってみますと「祈り」という言葉に集約されるのではないかと思います。施設の事を中心に話された浜松の山本施設長、伊豆高原の森施設長は、実現してほしい施設の姿を話す中に希望の祈りとなっていました。鈴木事務局長は法人の運営の変革を通じて、上野施設長は、本物を追及していく大切さを伝える事で十字の園全体への祈りになっていました。宮島施設長は、御殿場の歴史を追いながらオムツの使用量や排泄を通して職員が利用者を大切にしてきた祈りのお話をしてくれました。平和の杜の鈴木施設長は、自分が入職して戸惑いながら仕事をする事に対して、当時の鈴木生二初代理事長が、いつも暖かいまなざしを持って接してくれた祈りの姿を話してくれました。三條施設長の内容は生活の中にある評価という罪に対して、十字架に架って下さったイエス・キリストの贖いの祈りという事でしたし、また第2アドナイ館の鈴木淳司施設長は、神の愛を通して変えられる私たちへの祈りの話をされました。



それぞれのお話の中に直接「祈り」という言葉は入っていませんでしたが、キリスト教主義をとる十字の園の大切な姿勢を伝えられ、この「祈り」の姿こそが変わらないもの、変わってはいけないものという事になるのだと学ぶ時を得ました。感謝です。

松崎十字の園 施設長 三條洋二

十字の園大会2014プログラム

大会1日目：大会テーマに基づきこれからの十字の園を語る

鈴木 新 (法人事務局長) 『社会福祉法人制度改革5つの論点』	上野 貢一 (アドナイ館施設長) 『100年計画 本物を目指そう!』
山本 隆弘 (浜松十字の園施設長) 『感謝、感動、感激』	鈴木 啓之 (平和の杜施設長) 『創立者から私たちに与えられた恵』
宮島 克利 (御殿場十字の園施設長) 『排泄に関わるケアを通して考える』	鈴木 淳司 (第2アドナイ館施設長) 『施設から地域へ、集められる時代から出かけていく時代へ』
森 茂廣 (伊豆高原十字の園施設長) 『想像から創造へ』	三條 洋二 (松崎十字の園施設長) 『評価』

大会2日目：全員参加型ディスカッション

テーマ1 大会事前アンケートより発題された『人件費削減』について	テーマ2 一日目発表より発題された『理念』について
-------------------------------------	------------------------------

十字の園大会を終えて考えた事

法人事務局

事務局長 鈴木 新

十字の園大会での発表にあたり、法人の理念と歴史について改めて知る機会となった。50周年記念誌・DVD・HPに創立の精神と歴史が平易な内容で示されている。職員の中に法人の理念がよく解らないという声がある。理念の情報は、施設の資料やインターネットから得やすい環境となっている。受け身でなく、能動的に理念に関わることで、理念が身近なものになると思う。2014年事業計画書の冒頭で、平井理事長は、「十字の園の歴史と伝えるものを自分自身で見つけて身につけよう」と記している。

浜松十字の園

施設長 山本 隆弘

〔人件費削減〕収入を増やすことと両輪で考える必要がある。人件費は人数×単価。人を削るか、給与制度を見直すか、チーム力を高めるか、いずれも必要。でも「感謝」「感動」「感激」を失わない方法で行っていききたい。／〔理念〕あなたも、私も、特別な存在として、そして、一人では生きていけない存在として神様が創られたことに共感することから理念の理解が始まる。忘れないよう自分の言葉として語っていききたい。

アドナイ館

施設長 上野 貢一

「継承と発展」を願い、イエス・キリストの基礎の上に十字の園の様々な営みがなされ、日本の福祉のオピニオンリーダーの役割を担う気概を持って、本物のサービスの提供を目指して行く。パネルディスカッションのテーマ「人件費削減」は、職員を大事にすることを前提に、給与体系の見直しが必要である。具体的には、生活給の年功序列賃金と実績再分配のボーナスへの見直し、「理念」では、聖書の言葉に耳を傾け、実践の確認作業を行っていく。

第2アドナイ館

施設長 鈴木 淳司

十字の園は、評価する、評価される土台がない。その土台を作った上で、評価が人事考課としてつながらないと、癒着や不信が生れる。自己目標と、自己評価をし、個々人が目標と成果を理解する。上司はそれをサポートする仕組みを作り、お互いの信頼関係を築き、チームケアの質を高める。

テーマⅡ 理念について

勉強会や会議の場で、日頃の生活や、介護の場面で理念や聖書とどのような関係にあるか、聖書の言葉を用いて伝える。

御殿場十字の園

施設長 宮島 克利

時代の流れの中で、何を大切に、何をどう取り組んでいきましょう。私自身、このことを考える良い機会となりました。確かにいろんな問題や困難なことが矢継ぎ早にあります。でも、まずはそれがあっての問題です。何を大切に、何をどう取り組んでいくか。既に与えられた恵みに思いを向け、恵みを数え、勇気と解決する力を得たい、そして1人でも多くの職員と共に考え、取り組み続けたいと思います。

伊豆高原十字の園

施設長 森 茂廣

伊豆高原十字の園は、『目の前の一人一人を大切に！』を原点とし、『だれもが支えあい助け合って生きる共生社会の実現！』を目標とするベクトルを共有して、少しずつ成長し続ける共同体でありたいと思っています。まずは、ひとりひとりのスタッフを『活かし、補い、育てる』こと。そして、多様なスタッフの多様な力を最大限に活かして共同体の目的を達成することを楽しむことにします。

松崎十字の園

施設長 三條 洋二

二日目の理念についての討議の際、山崎陽司監事が言われました。「福音を伝えて下さい」と。その通りだと思います。私たちは、利用者のお一人お一人から喜びの笑顔を貰っていますがその笑顔は、私たちが愛を持って共に歩んだ結果なのです。そしてその笑顔をみんなと分かち合う事、みんなでその愛を確認し合う事。理念を追求する事ではなく、すでに歩みの中にそれが隠されている事を知ることです。私たちのEvangelionを伝えていきたいと思います。

伊東市立養護老人ホーム 平和の杜

施設長 鈴木 啓之

私は、職員は人財(宝)だと思っています。職員たちは自身の意思、考えを持ち、利用者と同じ向き合ってくれているのだと感じます。評価のことが議題に上がりましたが、おそらく職員たちは自分たちの考えや現状を理解して欲しいのだと思います。本当にいつもよくやってくれていると思います。今まで以上に職員の中に入り、その声に耳を傾けたいと思います。

【やっぱり食欲の秋?】

伊東市立養護老人ホーム平和の杜 鈴木みどり

秋に向けて「入居者と①遠からず②高からず③でも楽しめる行事はできないのか?」。そのような提案と「伊豆バスさん」のご協力により『箱根・海賊船・大涌谷バスツアー』が企画されました。

出発当日は、前日の大雨が嘘のような秋晴れとなり、入居者16名、職員8名がお揃いのワッペンを付け、まずは元箱根港を目指します。車内では、自己紹介で緊張をほぐした所で、「平和の杜紅白歌合戦」が始まり、その後の「箱根クイズ」、いつもの「パタカラ体操」まで大盛り上がりで、いつの間にか元箱根港に到着していました。

元箱根港からは『ビクトリア号』に乗船し、25分かけて桃源台港へと向かいます。青い空と新鮮な空気を感じながら、遠くに輝く初冠雪の富士山にうっとり。

到着した桃源台港からはバスで大涌谷へと移動し、噴煙と硫黄の臭いを体感しながら向かった先は大涌谷駅食堂です。カツにカレー、オムライスなどなど、好きなものを注文して大満足のランチタイム!そして、遠足の目的と言っても良いお買い物散策タイムへ!少し駆け足で向かった先は、やはり大涌谷名物『黒たまご』です。なんでも「1個食べると7年寿命が延びる」そうです。他にも饅頭、富士山型のチョコに飴など選ぶ目はいつになく真剣そのもの。「これは別腹?あれも別腹?」とおでんにソフトクリーム、煎餅、と入居者の底なし胃袋にはあっぱれというほかはありません。ご一行様大満足の一日でした。



【美味しい芋煮ができました】

伊豆高原十字の園 影山大地

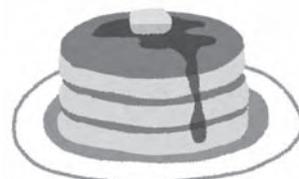
10月となり、暖かい鍋が美味しい季節となってきました。「かもめ」「うぐいす」ユニットでは、秋の味覚が楽しめる芋煮や韓国風海苔巻き、稲荷寿司を作り皆さんで召し上がっていただきました。

芋煮の具材は里芋、ジャガイモ、人参、ゴボウ、豚肉が入っており、具沢山でとても美味しく出来上がりました。韓国風海苔巻きは、小松菜、人参、カニカマ、魚肉ソーセージを韓国海苔で巻きました。ごま油で風味を付けているので、普段食べる海苔巻きとは違った、韓国「風」の味が楽しめました。

隣のユニットとはいえ、食事の時はあまり顔を合わせる機会が少ないため、大勢で集まってそれぞれ芋煮をつつき、海苔巻きや稲荷寿司を大皿から皆さん思い思いに取って召し上がって頂きました。いつもと違う食事の風景に最初は戸惑われていましたが、賑やかに食事が始まると、皆さん美味しそうに召し上がっておられました。(食べすぎ注意!!)。



食後のデザートは職員のデコレーションしたパンケーキを召し上がって頂きました。秋の味覚を皆さん沢山召し上がられ、満足されたことと思います。



【勝沼葡萄狩り】

御殿場十字の園

3階ひばりグループ

まだまだ紅葉には早い9月最後の30日、葡萄を食べに勝沼へ。御殿場から山梨県勝沼までは1時間30分の旅。富士山に向かい小山町須走から中央自動車道に入ります。途中リニア実験線の鉄橋の下を通ると「今日はリニア新幹線の実験日じゃないから見る事は出来ないねえ。」との声。時速500キロメートル（秒速約140メートル）では、きっと「あっ」と言った時には、走り去って行っている事でしょうねえ。

勝沼インターを降りればすぐに目的地葡萄農園『片田園』に到着です。大きな葡萄がいくつも垂れ下がる藤棚ならぬ葡萄棚の下が駐車場。車を降りて寛ぐテーブルも真上から葡萄が出迎えてくれます。「台風が逸れてくれて本当に良かったです。もしこちらに



来ていたら、この姿を見ていただく事は出来ませんでしたよ。毎年の事なのですが、台風が来ないでと祈るような気持ちで毎日を迎えます。特にこの時期はね。最上の葡萄を一番良い日に食べていただけます。」とオーナーが出迎えてくださいました。

昼食を終えて（お昼そっちのけで葡萄一筋の方も）食べ放題の葡萄は20数種類。もし「そんなに食べて大丈夫なの？」と聞いたなら「ん？別腹よ」と一生懸命頬張りながら答えてくれた事でしょう。

帰りの車の中は、お土産の葡萄の籠が所狭しと鎮座して居た事を記憶に留めておきましょう。

【ツワブキの花】

松崎十字の園 オリブ 馬場 弘

施設、玄関前の木の下に直径5センチ程の黄色い花が何輪か咲きました。寂しげな、この時期の庭に彩を添えてくれる。これが松崎町の「花」、ツワブキです。ちなみに松崎町の「木」は松です。これは少し当り前でつまらない。浜松市の「木」も松で、発想が同じだ。

キク科に属するツワブキですが名の由来は艶葉落（つやばふき）「艶のある葉のフキ」から転じたとあります。沖縄では「ちいばっぱ」と言うそうです。一般的なフキは夏しか葉を付けませんがツワブキは常緑性です。フキと同じように食用とする事も有ります。



今年の6月、オリブの理学療法士の佐藤を通じ、十字の園傘下の他施設に、牛乳パックを加工した容器に育てたツワブキの苗を配布させて頂きましたが、その後いかがでしょうか？上手く根付きましたでしょうか？成長も早いので来年にはツボミを付けると思います。好評でしたら今年も利用者と一緒に苗を作り、また配布させて頂きます。

乾燥にも強く、悪い土壌や日光不足にも耐えて咲くその姿は、まるで介護士のようにけなげで愛らしく力強いのです。もうすぐ冬を迎える施設の庭に、黄色いツワブキの花を見かけたら、少し遠いけど、松崎を思い出して頂けたら幸いです。

学校長期休暇期間対応職員学童保育所『げんき』の取り組み

第2アドナイ館 施設長 鈴木 淳司

浜松地区では、在宅サービスの職員が集まって西部地区地域ケア委員会を開いています。その中で、職員の働き易さが話題になり、学校の長期休暇期間に学童保育を実施する提案がありました。パート職員がその期間に休まなければ、勤務の変動も少なく済むので、働きやすい職場作りの助けになると考え、始める事となりました。



始めるに当たっては、預けるのではなく、親である職員が自分たちで考え、主体的に子育てに取り組む場所として参加を呼びかけました。場所は旧根洗荘を使い、ボランティアの方を中心に行いました。初めての試みで、ボランティアの方を募るのに苦労しました。それでも聖隷クリストファー大学の学生さんがボランティアに来てくださり、広がりが出来ました。参加した子供たちは、毎回喜んで参加して下さいました。

これから段々良いものにしていければと考えています。

2014
平成26年度

永年勤続者表彰名簿 (19名)

ありがとうございます。これからも元気で良い働きができますように!

勤続年数	氏名	施設名	就職年月日	勤続年数	氏名	施設名	就職年月日
30年	鈴木 完児	浜松十字の園	1984年4月1日	10年	田村美枝子	浜松十字の園	2004年4月1日
25年	杉山 克代	御殿場十字の園	1988年12月1日	10年	渡邊 直美	御殿場十字の園	2002年10月1日
25年	角田 靖子	御殿場十字の園	1989年3月1日	10年	板橋 君江	御殿場十字の園	2003年1月1日
20年	後藤 幸一	浜松十字の園	1994年4月1日	10年	池谷 洋子	御殿場十字の園	2003年4月1日
20年	鈴木 晶子	第2アドナイ館	1994年4月1日	10年	宮地 秀明	御殿場十字の園	2004年4月1日
15年	塚本りつ子	御殿場十字の園	1998年9月11日	10年	勝又 智子	御殿場十字の園	2004年4月1日
15年	永田 昌代	浜松十字の園	1999年4月1日	10年	中川 修大	松崎十字の園	2003年7月22日
15年	荒川 浩幸	浜松十字の園	1999年4月1日	10年	山本 幸代	松崎十字の園	2004年4月1日
15年	小川 智子	伊豆高原十字の園	1998年7月1日	10年	青木 昌子	伊東市立養護	2003年4月1日
10年	溝口 真紀	浜松十字の園	2003年2月1日				

あと
がき

表紙の写真は、伊豆高原十字の園のガーデニング活動の様子です。入居者の皆さん、そして地域の方が散歩を楽しめる庭“こころのふるさと”を目指し、施設周りの整備・ガーデニングを行っています。施設入口の植栽、花壇や遊歩道の整備など少しずつ四季を楽しめる環境に変わりつつあります。利用者さんのご家族や地域の方によるガーデニングボランティアさんに感謝しつつ、春の草取りに向けメンバーも募集中です。伊豆高原にお越しの際は、ガーデニングにも注目してみてください。(I)

復興支援募金継続中 ご協力を!!
皆様の温かい御支援をお待ちしております!!

〒431-1304

静岡県浜松市北区細江町中川 7220-11

社会福祉法人 十字の園

理事長 平井 章

銀行振替 静岡銀行細江支店 普通 0015345

(掲載されています写真については、ご本人またはご家族の承諾を頂いています。)